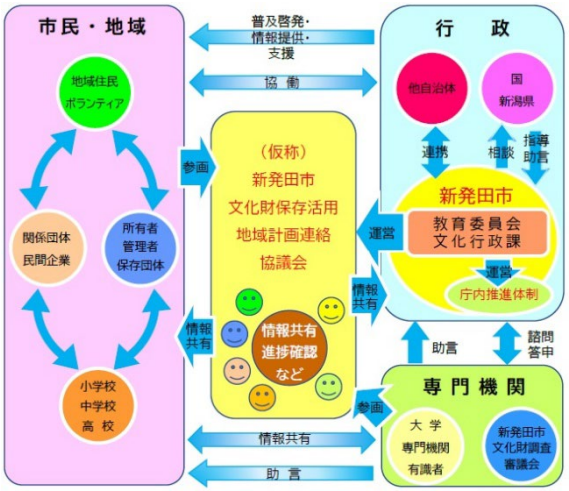
11　新発田市文化財保存活用地域計画【新潟県】

【計画期間】
　令和6～13年度（8年間）
【面　　積】533.11㎢
【人　　口】約9.5万人

推進体制

市民・地域、行政、専門機関がそれぞれの役割を認識しながら、力を結集して取り組む体制を整備



指定等文化財件数一覧

区　分	種　別		国	県	市	国登録	計
有形文化財	建造物		2	1	6	17	26
	美術工芸品	絵　画	0	0	2	0	2
		彫　刻	0	2	2	0	4
		工芸品	0	0	2	0	2
		古文書	0	3	5	0	8
		考古資料	1	3	5	0	9
		歴史資料	0	1	12	0	13
		小　計	3	10	34	17	64
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	0	2	0	2
	無形の民俗文化財		0	1	4	0	5
	小　計		0	1	6	0	7
記念物	遺跡（史跡）		1	0	5	0	6
	名勝地（名勝）		1	0	0	1	2
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）		5	1	2	0	8
	小　計		7	1	7	1	16
文化的景観			0	-	-	-	0
伝統的建造物群			0	-	-	-	0
文化財保存技術			0	1	-	-	1
合　計			10	13	47	18	88

指定等文化財は、８８件
未指定文化財は、２，０７３件把握

歴史文化の特徴

【 新発田市の歴史文化に通底する背景 】

「蒲の原から瑞穂の平野へ」という土地開発への思いと行動

Ⅰ 丘陵部に営まれた太古のくらし

市域東方の山麓部を中心に旧石器・縄文時代の遺跡が多くみられる。出土資料からは、東北地方からの影響を主としつつも隣接地域の影響がみられ、当地がヒトやモノの行き交う地であったことを示している。

Ⅱ 平野部への進出と開発のはじまり

古墳時代になると低地進出が始まり、平安時代に加速する。また、内水面交通の発達が遺跡の存在からうかがえる。鎌倉時代には地頭やその一族が国人層に成長した。勢力争いの様子は、多数の山城にも見ることができる。

Ⅲ 溝口氏270年の城と城下町

近世になると、溝口秀勝を祖とする新発田藩が成立した。江戸時代を通じて転封・改易がなく、資料が多く伝えられている。現在に続く城下町の町並みや河川などの整備、茶道文化など、当市の骨格はこの時代に作られた。

Ⅳ 藩政下の治水と新田開発

厚い砂丘列のため水害が頻発した新発田藩では、治水対策が大きな課題であった。併せて新田開発にも力を入れ、紫雲寺（塩津）潟の干拓などを経て、米の収穫量が増加した。その結果、地主の一部は豪農・豪商に発展した。

Ⅴ 軍隊の設置と産業の近代化

新発田は明治時代になると陸軍が駐屯し、軍都としての道を歩みはじめた。その影響もあり、鉄道敷設をはじめ交通・通信が整備され近代化が進んだ。また、耕地整理や治水事業も継続・発展、現在につながっている。

Ⅵ 自然がもたらした恩恵

市域は、高山地帯から海岸線に至るまで多様な自然的景観が存在する。また、コメや野菜・果物、日本酒などの産物は、この土地と共生してきた人々の努力が積み重なった、歴史文化の結晶といえる。

Ⅶ 地域の日々の生活にある文化財

地域に伝わる神楽や獅子舞などには、城下町のコミュニティーや農村部の人々の豊作への願いや感謝の思いが受け継がれている。また、水路や屋敷林、はさ木などの風景に、長い歴史に培われた地域の知恵と心が垣間見える。

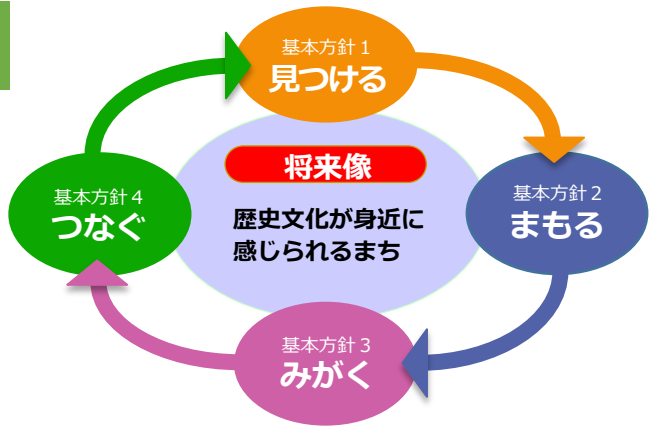
【将来像】　歴史文化が身近に感じられるまち

基本方針１　～ 見つける ～　魅力ある文化財の掘り起こし
　指定や登録がなされていなくとも歴史や文化等の面で価値を有する地域の宝を探す

基本方針２　～ まもる～　文化財の確実な保存と継承
　文化財を確実に次世代へと引き継ぐ

基本方針３　～ みがく～　連携による多面的活用と磨き上げによる魅力向上
　文化財に関わる組織や団体等の連携体制の強化を図り、文化財の魅力を引き上げる

基本方針４　～ つなぐ～　市民挙げての文化財の保存・活用へ
　できるだけ多くの市民が文化財の保存と活用に参画できる仕組みづくりを目指す



「見つける」・「まもる」・「みがく」・「つなぐ」を繰り返すことで、文化財の保存・活用が図られ、将来像の「歴史文化を身近に感じられるまち」に近づくとともに、関係する人の輪が広がり、地域の活性化や定住、観光客の誘客などにもつながることが期待できる。

文化財の保存・活用についての課題・方針・措置

見つける

【主な課題】
○把握調査が十分に行われていない
○市民からの情報を集約する仕組みや取組がない
○調査結果について未公開、冊子形態の公開が多い

【主な方針】
○未指定文化財の把握調査の継続
○市民からの文化財に関する情報提供を得やすい仕組みづくり
○把握調査結果のデータベース化

【主な措置】　（取組主体／計画期間）
1 文化財の継続的な把握調査　（市、市民・地域、専門機関／R6～13）
4 (仮称)「 地域の宝」登録制度の検討　（市、市民・地域／R7～10）
5 (仮称) 市民ワークショップ　（市、市民・地域／R6～13）
7 文化財のデータベース化事業の検討と推進　（市／R6～13）　等

まもる

【主な課題】
○市独自の制度創設の検討が必要
○所有者の高齢化などにより、日常的管理が難しくなってきている
○頻発する災害への備えが不十分
○未指定文化財への対応が不十分

【主な方針】
○文化財指定等の着実な推進
○指定等文化財の確実な保存
○文化財の防災・防犯対策の推進
○未指定文化財の保存支援

【主な措置】　（取組主体／計画期間）
9 (仮称)「 地域の宝」登録制度の推進　（市、市民・地域／R10～13）
11 (仮称) 文化財保存活用アドバイザー派遣制度の創設　（市／R11～13）
20 災害時対応マニュアルの作成・更新　（市、市民・地域／R6～10）
26 未指定文化財の相談窓口開設　（市、市民・地域／R7～13）　等

みがく

【主な課題】
○関係者等のネットワーク強化が必要
○文化財の魅力アップや付加価値を高める取組が必要
○点在する文化財の活用が不十分

【主な方針】
○文化財に関わる人や組織・団体等の連携強化
○文化財やその周辺環境整備による文化財の磨き上げ
○文化財と文化財を結ぶ工夫

【主な措置】　（取組主体／計画期間）
29 (仮称)新発田市文化財保存活用地域計画連絡協議会の設置と運営　（市、市民・地域、専門機関／R6～13）
33 新発田城土橋門の復元（市／R6～10）
39 文化財の見学ルートの設定　（市、市民・地域／R6～10）　等

つなぐ

【主な課題】
○人口減少等による担い手不足
○紙媒体による従来型情報発信が主流
○子どもが地域の歴史などに関心を育むことのできる環境づくり

【主な方針】
○多くの市民の参画につながる取組
○多様かつ効率的・効果的な情報発信
○子どもたちの参加促進

【主な措置】　（取組主体／計画期間）
43 歴史文化を活用したイベント等の企画・開催（市、市民・地域／R6～13）
55 SNSなどの情報ネットワークの活用　（市、市民・地域／R6～13）
58 しばたの心継承プロジェクトの推進　（市、市民・地域／R6～13）
60 公民館こども交流体験事業　（市、市民・地域／R6～13）　等

文化財の一体的・総合的な保存と活用（関連文化財群）

新発田市の関連文化財群

地域の多種多様な文化財を、歴史文化に基づく関連性、テーマ、ストーリーによって一定のまとまりとして捉えたもの。

歴史文化の特徴と関連文化財群の関係性

歴史文化の背景	歴史文化の特徴（テーマ）	関連文化財群（ストーリー）		
		城下町の面影を残す新発田のまち	会津街道沿いに残るいにしえの足跡	蒲原平野の治水と新田開発
蒲の原から瑞穂の平野へ	丘陵部に営まれた太古のくらし		○	○
	平野部への進出と開発のはじまり		○	○
	溝口氏270年の城と城下町	◎	◎	
	藩政下の治水と新田開発			◎
	軍隊の設置と産業の近代化	○	○	○
	自然がもたらした恩恵	○	○	○
	地域の日々の生活にある文化財	○	○	○

◎:メインとなる構成要素、○：関連する構成要素

（1）城下町の面影を残す新発田のまち
現在の新発田市の基礎を築いた新発田藩の事跡を中心に据え、その後の変遷も含めた文化財群。市の歴史文化のシンボルである新発田城を中心とした歴史環境に加えて、駅・商店街・観光施設等がコンパクトに集まっている。

（2）会津街道沿いに残るいにしえの足跡
新発田市の地形を形成した加治川とそれに沿って整備された参勤交代の道・会津街道周辺に残る文化財群。市内から直線状に延びた県道やサイクリングロードに面し、集落も歴史文化を生かした地域づくりに取り組んでいる。

（3）蒲原平野の治水と新田開発
歴史文化の背景である「蒲の原から瑞穂の平野へ」の根幹とも言える沖積平野部の新田開発を中心とした文化財群。治水や営農は過去から現在、そして未来へと続く事業であり、様々な団体等で活動を行っていること、また、対象範囲も市域全域に及び、数多くの市民とともに文化財の保存・活用を展開できる可能性を秘める。

関連文化財群のイメージする範囲

(1) 城下町の面影を残す新発田のまち

新発田城及び城下町を基盤とした、江戸時代から続く市街地に残された城郭や寺社・庭園・歴史的建造物、古文書や美術工芸品などの文化財に加え、祭礼などに伴う民俗芸能、町並みや水路の景観などが多く残り、重層的かつ複合的な文化財群が形成されている。

【構成文化財の例】
- 新発田城表門·旧二の丸隅櫓(国重文)
- 旧新発田藩足軽長屋（国重文）
- 旧新発田藩下屋敷庭園（国名勝）
- 新発田藩資料（県有形）
- しばた台輪（市有形の民俗）

新発田城表門

旧新発田藩下屋敷庭園

(2) 会津街道沿いに残るいにしえの足跡

加治川沿いは縄文時代などの遺跡が多く、古くからの主要ルートと考えられる。近世には参勤交代の道・会津街道が整備され、宿場には面影を残す建物や松並木などが点在する。また、近代には鉱山開発が行われ、鉄道の廃線跡など輸送に関する遺構も見られる。

【構成文化財の例】
- 五十公野御茶屋（国名勝）
- 旧会津街道一里塚（市史跡）
- 旧会津街道松並木（市天然）
- 米倉（宿場町）（未指定）
- 旧国鉄赤谷線（未指定）

五十公野御茶屋

旧会津街道松並木

(3) 蒲原平野の治水と新田開発

古代・中世の遺跡に農地開発の近世の紫雲寺(塩津)潟干拓の歴史資料や開削された落堀川などの景観が残る。また、巨大地主・市島家の邸宅や加治川分水門などの近代遺構もあり、各時代を通じての治水と新田開発に関する文化財が、広範囲に認められる。

【構成文化財の例】
- 正保越後国絵図（県有形）
- 市島家住宅（県有形）
- 竹前家文書（市有形）
- 五ヶ字神楽（市無形の民俗）
- 加治川分水門（未指定）

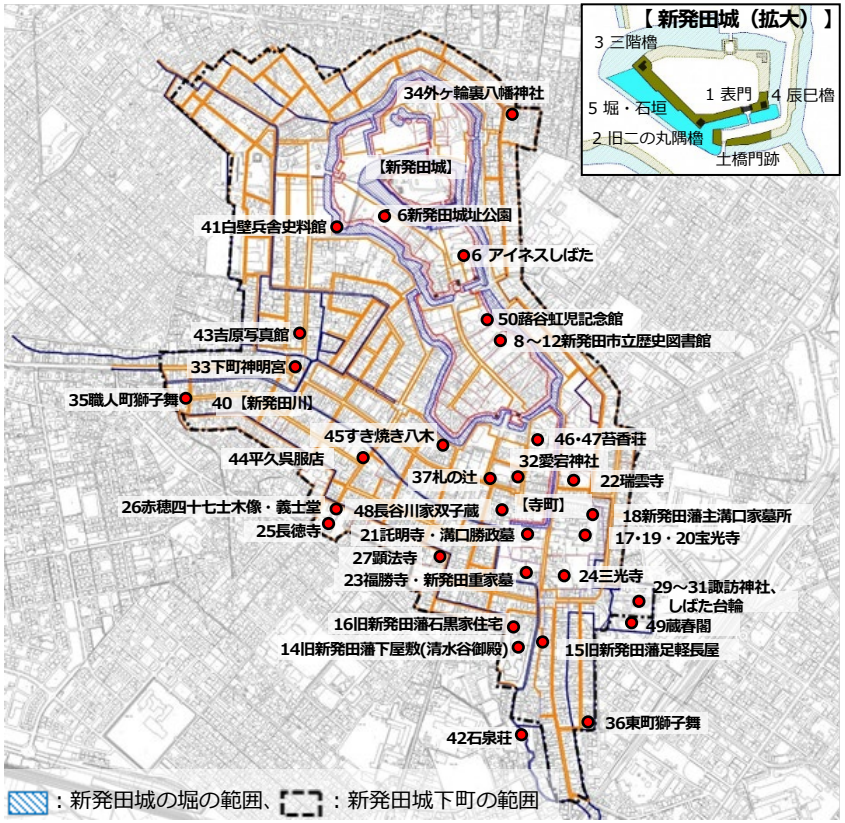
市島家住宅

加治川分水門

関連文化財群における取り組み

関連文化財群（１）
城下町の面影を残す新発田のまち

市の歴史文化のシンボルである新発田城を中心とした、城下町に残る豊富な歴史的環境に加え、駅・商店街・観光施設等がコンパクトに集まっている立地にある。文化財の保存・活用の取組を多面的に展開することが可能であり、市民参加の機会も多い。



【課題】

・一度見て終わりになり、活用が十分ではない文化財も少なくない。また、点在する複数の文化財を組み合わせて活用する取組が弱い

・文化財の保存・活用の担い手育成とともに、祭りなどの伝統行事の継承に課題がある など

【方針】

○新たな施設や周辺整備により魅力アップを図り、回遊ルートの提案や市民団体等のイベントとの連携など、周辺の文化財をつないで活用する事業に取り組む

○学校教育や生涯学習と連携し、子どもたちが歴史文化を体験・体感できる機会を提供し、後継者育成につなげる など

【措置】

33 新発田城土橋門の復元（ ■市 ■R6～10）

新発田城表門に通じる「土橋門」の復元と周辺整備により、表門や旧二の丸隅櫓、堀などと一体的な景観を整備し、新発田城のさらなる魅力アップに取り組む

39 文化財の見学ルートの設定（ ■市、市民･地域 ■R6～13）

新発田城と城下町をつなぐ「歴史のみち」など、歴史文化のストーリーやキーワードで結ぶルートを設定し、市民や観光客等に興味をもって回遊してもらえるようＰＲを行う

58「しばたの心継承プロジェクト」の推進（ ■市､市民･地域 ■R6～13 ）

小中学校において、子どもたちが地域の歴史文化等を学ぶことで、自分の生まれ育った地域への愛着と誇りを胸に成長し、活躍する人材を輩出する など

3 新発田城 三階櫓（復元）

14 旧新発田藩下屋敷(清水谷御殿)

15 旧新発田藩足軽長屋

31 しばた台輪

40 新発田川